

したいのかを語りだすのです。テーブルはこの地域をより理想に近づけるために、何ができるのかを語り合う場になっていきます。そして、1つの地域に「こうしたい、こうなりたい」という宣言文が創られていくのです。その宣言文を住民自らがご近所ごとに全体に発表するのです。宣言文が発表されると、地域の全体像が見え始めます。「個」に目を向けていくことで見えてくる課題を解決に向けて行動することで、子どもの日常生活を豊かなものに変えてくることができるのではないのでしょうか。

### 思いが美しいデザイン画となって

まちづくりの専門スタッフと植栽の専門家のチームプレーで住民とのやり取りがしばらく交わされます。

なぜ、その木を植えたのか？どんな玄関先を望むのか？など、心の内に秘めた思いをより深いところから引き出していきます。会話の中には「あの家の人は本当は草花が好きなんだけど、高齢になって世話ができないらしい・・・私が少し引き受けてあげてもいいん



店先も街のイメージをより強調するよう  
な素敵な趣にチェンジ! 風格もアップ

だけけど・・・」などと緑を介して人の繋がりが生まれ始めます。次の会合では、そんな気持ちを美しい水彩画として植栽デザイナーが提案します。会場は感動の声と拍手で一杯になります。地域住民の間で交わされる会話が、持続可能な地域コミュニティに成長させるのです。

### 浅草のその後

浅草寺裏にある「みちびき花の辻商店会」が「まちなか緑化活動支援事業」のモデル地域としてスタートして2年後の今年の5月30日に植木市と同じ日に「おひろめ会&野点」を開催しました。今回のまちなか緑化事業に参加した店舗は緑の可動式プランターを「花と緑の屋台」として広場に運び、お祭りの雰囲気を一層盛り上げました。普段の日には店舗前が緑で美しく飾られ、祭事には店舗名の入った屋台が場を盛り上げる・・・売り上げ増という結果も出せて一石何鳥もの効果が得られました。「見番」を中心に街並みがより



「文化と緑を活かしたまちづくり」を企画した(株)チームネット甲斐徹朗さんから「花と緑の屋台おひろめ会」ツアーの参加者が店先緑化の説明を受ける

素敵になり、浅草の人々は地域の絆を更に強くし、個人の緑を愛する気持ちを商店街全体の利益に変えていったのです。まさに、「個人の利益」は「地域の利益」の現場に立ち合えて目からウロコの体験でした。

### 私の夢

私が、この「まちなか緑化インストラクター」講座を受講し、資格を取得するに至ったきっかけは「ゴーヤでつくる緑のカーテン」でした。地域に広めたいという思いから、エコプラザや小学校、中学校で講義をするようになりました。

もっと専門的な知識を得て、緑のまちづくりに活かすため、現在はプロフェッショナルコースを受講中です。一緒に活動している「NPOエコメッセ」や「目黒・生活者ネットワーク」と連携しながら、学芸大学の碑文谷公園から円融寺、碑文谷八幡神社など緑の多い地点を結んでみたいと思っています。中間地点にはエコメッセのお店（生活者ネットワークと同居）があります。お店の人とお客様、地域に暮らす人々と「みんなが得する緑とコミュニティの再生」を手掛けたいと思っています。



「見番」のある商店街は、歴史と文化、緑の融合でその趣を大きく変えました（「みちびき花と緑の屋台おひろめ会」見番前での野点など）

